



病院には どんな仕事があるのかな？

病院は、病める人を社会復帰させることを目的とし、医師をはじめとする多くの職員の連携と協力による「チーム医療」に取り組んでいます。病院の中には、さまざまな業務があります。

医局・看護部・薬剤部・検査科・栄養管理室・放射線科・リハビリテーション科・臨床工学科・事務部・地域連携室などで働いている専門職種がチーム組んで、それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、患者さんに最も適した最新の治療にあたっています。

また、適切なアドバイスや必要な情報提供を行って早期社会復帰への手助けをしています。

FILE: 07 医療クラーク Medical Clerk

働いている方に
INTERVIEW

医療クラークの仕事

～ 医療クラーク・田中さんに聞いてみた ～

医療クラークとは？

正式名称は「医師事務作業補助者」といいます。文字通り、医師の事務的な業務についてサポートする職種です。多忙な医師の負担軽減を目的に、この10年間で全国的にも普及が進んでいます。病院によってその呼称はさまざまですが、当院では「医療クラーク」という職名で従事しています。

外来診療のサポート

当院では約40名の医療クラークが、各診療科の医師の下で仕事をしています。患者さんがよく見かけられるのは外来診察室ではないでしょうか。医師の横に座り、パソコンをパチパチ入力している事務職員です。従来、医師は患者さんと話しながら電子カルテの記録も同時にしなければなりません。そこで医療クラークの出番です。患者さんと医師の話をよく聞き、漏れのないよう、わかりやすく記録します。そして、医師がパソコン画面ではなく患者さんのお顔を見ながらお話しできるよう心がけています。

紹介状や診断書の下書き

また、患者さんからお願いされた、紹介状や保険会社の診断書などの書類の下書きもしています。医師は外来、病棟、手術、救急外来など、患者さんのため常に奔走しています。その激務の合間や夜になってから、カルテを紐解き書類を作成するのは、仕事とはいえ酷な状況に違いありません。これが医療クラークによって下書きできれば、医師は確認し、必要に応じて加除修正するだけでよいのです。できるだけ医師の手直しの必要がないよう、医療クラークも勉強しながら下書きしています。

診療部
医療クラークリーダー
田中 加奈子
(10年目)



診療科に特化した行き届いたサポート

医師によって業務の指示範囲が異なるため、すべての医療クラークが上記を行っているわけではありませんが、その他にも診療科に合わせた業務をそれぞれ行っています。

さて、医療クラークはどこで知識を習得しているのか？当院では、定められた基礎研修を院内で行い、医学知識は日々の診療の中で医師から学んでいます。また、院外の研修への参加や、学会発表、専門の資格取得なども積極的に行っています。

患者さんのために

医療クラークという職種が生まれてから、医師は診療に専念できるようになり、患者さんのことをより深く考えられる時間が増えました。

これからも、患者さんが安心して医療を受けられるよう、医療クラークは縁の下の力持ちとなって頑張っていきます。

